

# 乳腺細胞診 画像診断との比較 100選 CONTENTS

刊行にあたって・III  
CONTENTS・IV  
本書の見方・IV  
方法・V  
略語解説・VII

症例提示 (症例 1 ~ 100) ..... 1 ~ 201  
 疾患別症例一覧 ..... 202  
 画像所見一覧 ..... 203  
 著者略歴・207

## 本書の見方

**細胞診依頼情報**  
臨床診断  
臨床情報

**マンモグラフィ提示**  
乳腺超音波像提示

Case No. 1

**細胞診報告**  
細胞像提示  
細胞診断  
所見

Case No. 1

細胞診 悪性

所見: 腺系 atypical cells からなる種々な集塊が多数出現しています。個々の核は比較的異型が弱く筋上皮細胞 (?) を保っている個所がある一方で、核異型が強く、またこれらの集塊では肺状構造を呈したり、索状あるいは輪状を呈するものを呈するものもあります。tubular type DCIS に加えて scirrhous type IDC を疑わせるなど所見は多彩です。組織診を希望します。

治療病院へ紹介・受診  
手術: 左乳房腫瘍部分切除+センチネルリンパ節生検  
術後療法: 放射線療法+ホルモン療法予定

病理確定診断: invasive ductal carcinoma, papillotubular type, f, Ly 0, V 0, NG1, DCIS (+), papillary, cribriform, comedo

事後評価  
約 5 mm の小病巣を適切に穿刺して細胞を採取できた。細胞診断では、小型の塊状あるいは長索状集塊に目が留まって scirrhous type を考えたのは、少し過剰だった。Scirrhous IDC とするには核異型度は少し弱い。

臨床経過

事後評価

画像診断経過  
診断経過説明と細胞診採取部位

臨床経過  
治療病院への紹介有無  
治療法  
病理確定診断  
その後の経過

事後評価  
(診断過程での細胞診, マンモグラフィならびに超音波所見の再評価、反省を含む)